



日语专业实用写作技能培养

基础

日语写作

张桂丽 编著

南开大学出版社

基础日语写作

基础日语写作

——日语专业实用写作技能培养

编著 张桂丽

南开大学出版社
天津

图书在版编目(CIP)数据

基础日语写作：日语专业实用写作技能培养 / 张桂丽
著. —天津：南开大学出版社，2008.7

ISBN 978-7-310-02949-5

I. 基… II. 张… III. 日语—写作 IV. H365

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2008)第 094455 号

版权所有 侵权必究

南开大学出版社出版发行

出版人：肖占鹏

地址：天津市南开区卫津路 94 号 邮政编码：300071

营销部电话：(022)23508339 23500755

营销部传真：(022)23508542 邮购部电话：(022)23502200

*

河北昌黎太阳红彩色印刷有限责任公司印刷

全国各地新华书店经销

*

2008 年 7 月第 1 版 2008 年 7 月第 1 次印刷

787×1092 毫米 16 开本 12.5 印张 299 千字

定价：20.00 元

如遇图书印装质量问题，请与本社营销部联系调换，电话：(022)23507125

前 言

从古至今，异文化之间的交流以各种形式在不断地进行着，随着信息化时代的到来，这种交流更加频繁和普遍，也更加重要。在信息化时代的今天，只停留在口头上的交流方式越来越难于充分满足异文化交流的各种需要。尤其是处于改革开放以及全球经济一体化的大环境下，书面交流的地位日益得到提高。因此，可以说，外语写作水平的高低是一个学生能否适应新时代，能否自如地进行异文化交流的决定性因素。

写作，像一面镜子，它综合地反映了学生的基本素质。“写”是一项重要的语言技能，它是用笔头输出文字信息来表达思想，它可以锻炼学生的观察力、想象力和逻辑思维能力，它可以综合、全面、准确地反映学生对语言的实际运用能力，甚至可以反映他的文化修养。

以往对日语作文的各种评介以及各种辅导中，往往比较注重写作的格式。比如，日记、书信的书写格式、题目的书写方式、感想的写法、标点符号的使用等等。而对文章的内容、中日文表达上的差异、日语的表达习惯、日本人的审美意识以及母语在诸多方面对于日语表达的影响等问题，却没有引起足够的重视。我们知道，格式是保证写作形式的正确性所不可缺少的要素，而内容则是书面交流的核心所在。如果没有正确的格式来支持内容，文章就不能很好地被理解、接受；而只有正确的格式，没有好的内容填充，那充其量也只是空有一副好骨架而已。

日语写作始终是困扰日语学习者的老大难问题，在各类考试中，写作卷面的总分平均不超过该项分值的一半。写作技能的薄弱，不仅影响了学习者驾驭语言的能力（主要表现在学生对语法、句法问题不求甚解，翻译上行文不通，语篇阅读上效率不高），而且也使其交流水平受到了极大的限制（主要表现在学生填写各种表格、交流信件、撰写论文时不知从何下手）。笔者认为造成这种现象的主要原因是日语的基本功不够扎实。一些基本的语法结构尚未弄清，修辞方法尚未掌握，对文体格式缺乏起码的概念性的认识。

为了帮助广大日语学习者全面提高日语写作能力，系统地掌握日语写作的基本知识和基本技能，笔者在长期的日语专业教学实践基础上，通过对大量资料的潜心研究和精心整理，编写了这本《基础日语写作》。该书既适合大学生和研究生在日语教学中使用，也适合相应水平的读者使用。

本书的编写突出强调实用性。主要包括以下三个方面：第一，从写作的基本单位——句子讲起，采用实例法，帮助学习者分析写作中常见的语病；第二，渐进式全面讲授句子——段落——文章的各种写作手法，递进式提供练习、范文和试题评析；第三，帮助学习者掌握日语专业四级考试的作文以及本科毕业论文的写法。

写作是一种笔耕，这一点是不分语系的。只有树立信心、下定决心，才能最终攻下日语写作关。本书若能为广大读者提高日语写作能力奉献微薄之力，笔者将深感欣慰。

本书撰写过程中得到了贺亚芹教授的鼎力支持，贺教授从事高校日语教学工作三十年，

积累了宝贵资料和经验。从选材到构思给予了悉心的指导，在此谨表示衷心的感谢。同时向大力协助的同事、亲友、学生、出版者以及参考文献中的著作者一并致以诚挚的谢意！由于时间仓促，书中不足之处在所难免，敬请广大读者批评指正。

编者著

2008年2月于天津

目 录

第一单元 准备写作	1
1.1 为什么要写作	1
1.1.1 写作是一种交流	1
1.1.2 写作使人思维更准确	1
1.1.3 通过学习来写作	2
1.2 文章的写作格式	3
1.2.1 标题	3
1.2.2 开头段	4
1.2.3 正文	4
1.2.4 结尾段	5
1.3 审题和构思	5
1.4 草拟提纲	13
1.4.1 提纲的概念	13
1.4.2 草拟要领	14
1.4.3 草拟形式	14
第二单元 句子写作	15
2.1 主题句	15
2.1.1 概念	15
2.1.2 基本要求	16
2.1.3 位置	16
2.2 句子常见语法结构错误	17
2.2.1 助词	17
2.2.2 活用	24
2.3 正确的标记与表述	35
2.3.1 标记	35
2.3.2 标点符号	37
2.3.3 稿纸的使用方法	39
2.3.4 文体统一	40
2.3.5 英文字母的日语读法	41
2.3.6 数学符号的日语读法	41

第三单元 篇章法	42
3.1 句子	42
3.1.1 语段	42
3.1.2 表示句间关系的语言手段	48
3.2 段落	54
3.2.1 段落设立之间的一般关系	54
3.2.2 依照主题和素材写出段落	55
3.2.3 依靠段首句写出段落	56
3.2.4 句子的排列	57
3.2.5 段落间的关系	58
3.3 文章	61
3.3.1 文章的概念	61
3.3.2 文章的结构	62
3.3.3 文章的主题思想	63
3.3.4 文章的分类	66
第四单元 实用文体写作	69
4.1 文章草稿和文体类型	69
4.1.1 写作草稿	69
4.1.2 修改草稿应注意的问题	69
4.1.3 实用文体类型	69
4.2 记叙文	69
4.3 描写文	72
4.3.1 人物描写	72
4.3.2 景物描写	72
4.3.3 场面描写	72
4.4 说明文	73
4.4.1 解释说明	74
4.4.2 分类说明	74
4.4.3 举例说明	75
4.4.4 比较说明	75
4.4.5 对比说明	75
4.4.6 比喻说明	76
4.4.7 介绍说明	76
4.5 应用文	77
4.5.1 信函	78
4.6 标题作文	100
4.7 个人简历	101
4.7.1 基本要素	101

4.7.2	基本格式	101
4.7.3	基本要求	101
4.7.4	基本内容	101
4.7.5	富有创意	101
4.7.6	范文	102
4.8	电子邮件的写作	105
4.9	议论文	107
4.9.1	议论文的含义和特点	107
4.9.2	议论文的要素	107
4.9.3	议论文的结论	108
4.9.4	议论文的写作	108
4.10	学术论文	110
4.10.1	学术论文的性质和特点	110
4.10.2	学术论文的结构特征	110
4.10.3	学术论文的语言特征	113
4.10.4	议论文的范文	113
4.11	图表写作	118
4.11.1	图表写作的组成部分	118
4.11.2	图表题形主要分类	118
4.11.3	图表写作难点	118
4.11.4	写作要求	119
4.11.5	写作要点	119
4.11.6	常用句型	119
4.12	看图写作	124
4.13	模仿范文写作	128
4.14	调查报告的写作	129
4.15	其他写作要点	131
第五单元	四级应试短文写作	135
5.1	测试的目的	135
5.2	测试的形式及范围	135
5.3	作文的评分原则	136
5.3.1	大纲示范作文及真题范文	137
5.4	作文辅导	144
5.5	有引导作文的写法	146
5.5.1	将图表(情景场面)转换成文字形式	146
5.5.2	依照引文写出段落	151
5.5.3	模仿范文写出段落(参照实体写作 4.11)	154
5.5.4	依照主题和素材(要求)写出段落	154

5.6 无引导作文的写法	155
5.6.1 总论	155
5.6.2 无引导作文的例文	156
5.7 综合范文实例	158
5.7.1 自己的事情	158
5.7.2 身边的话题	164
5.7.3 发表意见、感想	174
第六单元 本科毕业论文写作指导	182
6.1 选题的原则	182
6.2 资料搜集的方法	182
6.3 论文分类和研究方法	185
6.4 开题报告	186
6.5 毕业论文的基本构成与写作要领	186
参考文献	191

第一单元 准备写作

1.1 为什么要写作

高等院校日语专业基础阶段的教学任务和目的是:培养听、说、读、写、译的基本技能。写作是用输出的文字信息来表达思想,可以锻炼学生的观察能力、想象力和逻辑思维能力。所以说写作不仅是交际活动的交流方法,也是综合、全面、准确地检查基本技能的重要手段。

1.1.1 写作是一种交流

在开始写作之前,我们经常想到的是“这篇东西怎么写?”而往往忽略了动笔之前的两个基本问题:

- (1) 我要写给谁看?
- (2) 我要给他(她)看什么?

事实上,上述问题可以合二为一——“我要给谁写什么?”为了回答这个问题,就要掌握写作过程中的两个基本原则:

第一,写自己熟知的事情。如果对想表达的事情很熟悉、很清楚,我们就可能写出有趣味、有价值的东西。

第二,脑海中要有一个假想读者。这个读者可以是我们的老师,也可以是同学、同事、父母、朋友、人事部门主管等等。他们可以是我们任选的,也可以是写作要求的某个人。总之,动笔之前要确定这个读者。

确定读者包括两个方面:

- (1) 我的读者是谁?(包括年龄、兴趣、文化程度、对我的文章的期望等。)
- (2) 我要与读者交流什么?

“书面交流”不同于“面对面的交流”,它无法借助表情、手势等肢体语言来表达思想,读者的理解是检验这一交流成功与否的关键。因此,动笔之前必须弄清交流的内容或目的:要说明什么;要建议什么;分析解释什么;叙述描写什么;辩驳哪种偏见和错误等等。

1.1.2 写作使人思维更准确

费朗西斯·培根在《论学习》一文中曾经写到:“读书使人充实;讨论使人机智;写作使人准确。”这句话告诉我们“准确”是写作的灵魂。因为越是抽象概括的词汇,越是表达普遍模糊的概念;而要传达清晰明确的思想,必须字斟句酌,具体特定。

试比较下篇文章中的三组句子。

日本語と自然

日本語には、たとえば雨を降らすことばがいくつかある。はるさめ、さみだれ、むらさめ、夕立、しぐれ、ひさめ、その他、それらはそれぞれの季節の雨を示すとともにその降り方をも示している。(中省)雨という一般的な言い方でなく、それをそれとして描く。そして後人はそれらの詩句によってかえって春雨やしぐれの感興を感じるということが起こる。雨はもはや天然現象ではなく、人間の心情の染められた雨となる。そして自然と情緒との交流は山川や土地の固有名詞の場合にいっそう強いものとなろう。(唐木順三「日本の心」)

在这篇文章中我们可以归纳如下3组句子：

- 第一组 a. 雨を示すことばがいくつかある。
b. それらはそれぞれの季節の雨を示すとともにその降り方をも示している。
由一般趋于特定。
- 第二组 a. 雨を示すことばがいくつかある。
b. はるさめ、さみだれ、むらさめ、夕立、しぐれ、ひさめ、その他。
由抽象趋于具体。
- 第三组 a. 雨という一般的ないい方ではない。
b. 後人はそれらの詩句によってかえってのはるさめやしぐれの感興を感じるということが起こる。
c. 雨はもはや天然現象ではなく、人間の心情に染められた雨となる。
由模糊趋于明确

以上3组句子向读者展示了清晰明确的思想，即：由雨的词汇导入各自的季节雨及降法，又引申为“所说的雨不是一般的说法”而是“后人由于诗句而对雨产生了兴趣”接着叙述出了“雨已经不仅仅是自然现象，已成为受人们心情所渲染的雨”所以“自然和情绪的交流是山川和土地的固有名词时表现更为强烈，准确。”

1.1.3 通过学习来写作

目前有关写作存在着两种观点。一是“通过学习来写作”，二是“通过写作来学习”。如果说写作是一个“自我发现，自我认识，发现和认识周围世界的过程”，那么第二种说法应该是正确的；然而，如果从写作的实用性出发，从大多数第二语言学习者的需要出发，以交流的实现作为写作的终端，则本书须定位在前一种观点——通过学习来写作。

首先，必要的写作技巧是不可忽视的。

从微观意义上讲，不清楚某些语法和用词错误，则很难写出一个好句子。而不知道某些修辞作用，也无法使文章生动精彩传达某些气势。

从宏观而言，文体的选择就如身上的衣服，选择不当就会比例失调，文不对题。

其次，写作需要考虑到“受众”。

针对不同对象练就驾驭不同体裁和文字的必要技巧，这是写作训练的理想佳境。

1.2 文章写作格式

写作最终需要一个书面的表达形式，对这个格式心中有数，才能保证写出的东西不至于残缺，一篇文章通常包括以下四部分：

- 第一部分：标题(題目)
- 第二部分：开头段(引言)
- 第三部分：正文(正文)
- 第四部分：结尾段(結束語)

1.2.1 标题

它是表示文章宗旨的核心，是牵动全文的关键。通常以最简洁、最适合的词构成的词组来反映特定内容。

「主題は要旨よりも縮約された形である。しかし普通は要旨を論理的な文章の要約、主題を文学的な文章の中心思想という意味に使うことが多い。要旨が論理の運びを含むのに対して主題は端的に筆者の中心思想を示そうとするので、主題のほうが短い形をとる。」

○标题和条件

标题有各种各样的形式，但实际出题倾向主要分类如下：

①抽象概念

例えば「職業」とか「抱負」とかという単独な概念が示される形式。

②概念と概念

例えば「開発と公害」といった概念と概念との組み合わせによる「AとB」型の形式。

③具体的事例

例えば一人の小学生の断片的な行動を暗示的に示して思うところを書きなさいという形式。

④長文読解

例えば、長文の読解を条件とする形式。

⑤図表その他

例えば、図表や写真やマンガを資料として出す形式。

与上述标题形式相对应，题目的内容主要分为以下类别：

- a. 自己：自己を中心にするもの。
- b. 志望：進路や抱負を述べさせるもの。
- c. 学芸：志望学部学科を中心にして学問芸術の問題を述べさせるもの。
- d. 日本：日本の歴史や文化について論じさせるもの。
- e. 社会：国際事情や社会の動向について考察させるもの。
- f. 時事：時事的な現象や事件について思うところを述べさせるもの。
- g. 理念：「人生」、「生死」といった理念をめぐる考えを述べさせるもの。

在写作时重要的是把标题形式和内容领域结合起来。

1.2.2 开头段

开头段即文章的第一段。它可以是一句话，也可以是一个自然段。写开头段主要掌握两个要点：

第一、让读者了解文章的中心思想和内容。

第二、引起读者通读全篇的兴趣。

试看下面题为「学生と社会」的开头段

どの社会もそれぞれ独自の文化の伝統を持っている。それを維持し継承することは社会の責任であり、社会から見たばあい、そのために教育はあると言えるだろう。しかし、単に社会の文化を維持し継承するだけでなく、さらにそれらを発展させ創造するという重大な役割を担っているのが大学であり、学生というものであろう。

在这段引言中，作者旨在学生和社会的关系。首先说明不管哪个社会都有其独特的文化传统，又以「それを維持し継承することは社会の責任であり—それらを発展させ、創造するという重大な役割を担っているのが大学であり、学生というものであろう」这就引出了全篇的中心思想——「学生と社会」。

又如下面题为「みんなの力」的开头段

「私はだれの世話にもならず一人で暮らしていけるか」という考えは正しいだろうか。私たちは毎日の暮らしで、ほかの人々によって作られたいろいろなものを使っている。

这段文章的开头段第一句话就引起了读者的兴趣，即“我不给任何人添麻烦一个人能生活下去吗”这种想法对吗？为什么不对呢？自然就会激起读者对文章正文的遐思。

1.2.3 正文

正文一般由几个推展段组成。要写好正文必须注意各段的主题句及短句间的衔接，应用事实论据来阐述和论证引言中提出的主题。

如：「読書」的正文部分

現代の青年として読書をするのは当たり前という考え方もあるだろう。当たりの心掛をわざわざ特別なことのように考えて「趣味」を答えるのは読書が身についていない証拠だという人がいるかも知れない。それでも、私はこのごろあえて「趣味」は読書と答えることにしたのである。

本を読むことの自体が楽しいという感覚を大事にしたいと考えたからである。例えば、剣道や柔道には趣味という表現と相いれない性格がどこかにある。むしろ特技といったほうがいい。しかし読書を特技と称したら妙なものである。同様に、座禅を趣味といったり特技といったりすれば変な感じがする。もっとまじめなものであって、そもそも趣として答える性格のものではないような気がする。その点、読書には武道や修行にはない楽しさという要素があると思うのである。

一般に読書好きな人は本を読むのが楽しいから本を読むのであって、出かける時に何か本を持っていないと手が寂しいという友人もいるくらいだ。私もいちおう読書好きなほうである。それでも、この友人の読書好きにはかなわない。歩く時に必ず本を持っている。昼食の時も本を開いている。四月に教科書が手に入ると、全教科、わかってもわからなくて気のすまない男であった。

这里，作者在正文的第一段写出的主题句「本を読むことの自体が楽しいという感覚を大事にしたい」，在第一段的结尾又扣题为“在读书里有武道和修行里所没有的乐趣这一要素”。第二段又扩展到“如果手里没有书就觉得寂寞，甚至吃午饭时也看书。新教科书一到手，不管懂不懂都看到最后一页。”这两段应用事实论据阐述和论证了引言中提出的「現代の青年として読書をするのは当たり前という考え方もある」的主题思想。

又如下面题为「学生と社会」一文的正文部分。

そうした社会と大学との関係は今日、崩壊しているかに見える。与えられたこの作文の表題自体が示しているように「学生」と「社会」はまるで独立する二つの集団のようにさえ見られている。二つの集団は激しく対立するか、もしくはお互いに無関心を装うようになってそれぞれの関係を見失っているかのようである。

学生はその自治権の無限の拡大を企図し、過激派の形で社会への挑戦に熱中するかに見える。一方、国家権力は隙あればその自治に介入しようと狙っているかに見える。そうした対立関係があるかと思うと、反面ではお互いに無関心も見られるのである。隣の息子が大学へ行くからお前も行け、といった風潮が親の側にあり、息子は息子で四年間の青春を大いに謳歌し、浪費する。大学生活というものを社会へ出るまでの休養期間ぐらいにしか思っていない。だが、そうした学生に対して社会は寛容である。

在这篇文章的正文里，作者论述「社会」と「学生」简直就像两个独立的团体。两个团体好像是过分对立或失去了各自的关系。接着又扩展叙述了学生企图将其自治权无限扩大，看起来热衷于以过激派的形式向社会挑战——以儿子的事实进一步的论述，以突出主题思想。

1.2.4 结尾段

结尾段旨在重述全篇的中心思想，强化在开头段所讨论的问题，给读者留下深刻的印象。试见「読書」的结尾段：

こういう人間を実際に身近に見ていると知識を得るための読書、娯楽のための読書、といった分類が無意味に思えてくる。何のため、などと考え込んでいる暇に、どの方面にでもどしどし読書の域を拡大していいではないか、といった気持ちをこめて、私は「趣味」は読書と力強く答えることにしたのである。

这个结尾段仅一句结论性的句子即对全文做出了总结。

又如：「学生と社会」的结尾段：

こうした両者の関係は決して好ましいものではない。「学生」も「社会」も原点に立ち返って「学生と社会」ではなく、「社会の中で明日を創造する学生」の関係を取り戻さなければならない。そう私は思った。

这个结尾段扣住了引言部分的主题，作者认为返回到起点来看不是“学生和社会”的关系，而是“在社会中创造明天的学生”的关系。

1.3 审题和构思

掌握文章的结构之后，下一步需要对题目（自选或指定）的各个方面进行初步了解，因此不必急于立刻写出观点明确、结构严谨、语句流畅的绝妙文章，而是要使自己放松，

在放松的状态下，自然而然地进入审题和构思过程。

试看下面审题和构思的范文。

1. 理想の教師

主題を設定する

教育学部や教学大学系に出題されることが予想される課題である。具体的な人名をあげるだけでは、理想像のイメージが結ばないので、まず概念的でよいから自分の考えを結論的に用意する。さらに具体的にその内容を肉付けする話題がほしい。単なる自分一箇の抱負でなく、「理想の」という点に注意したい話題である。

2. わが母校

主題を設定する

「母校」という題目である以上は、単なる出身校というのではない。何らかの感情をこめて、母校のよさを相手に訴えるものがほしい。制限字数は300～350字であるから母校の美点を一点豪華主義で打ち出すことである。

現在卒業見込みの場合、母校への悪感情を吐き出すような文章は特殊な事情でもない限り不可能である。

構想を練る

350字の範囲なら段落分けをしないで書くことも可能である。長いセンテンスを二つ三つ書くよりも、短い文でつぎつぎ畳みかけるほうがまとまりやすい。

「類題」

高校の得意科目、不得科目、放課後のひととき、母校の朝と夕、母校自慢。

3. 一番つらかったこと

主題を設定する

具体的な話題をまず求めなければいけない。次に五W-H式に（いつ・どこ・だれ・なぜ・なに・どう）という内容が読み手にわかるようにする。特に自分という人間にとって「なぜ」つらかったのが大事である。主観的な感情吐露だけでは相手の共感は得られない。冷静に自分を見る目、現在からの距離感が必要である。

構想を練る

五W-H式に事柄の概要をおさえながら、「つらかった」心情を客観的に織り込む。単に珍談奇談を語るのではなく、精神的にも沈痛な姿勢が伴うだろう。

「類題」

一番うれしかったこと、喜びと悲しみ、喜怒哀楽、マラソン体験記、やりとげる、いじめ。

4. 思い出

文章の発想として、「思い出」に関する論説を書くのか、それとも自分自身の「思い出」

の内容そのものを回想ふうに従筆としてつづるか。そのどちらかを決めなければならない。論説文の場合は当然、思い出という姿勢と青年期との矛盾を取り上げる必要がある。

構想を練る

青年と未来、老人と過去、といった対照もできる。自分の中の未来→現在→過去という時間も考えられる。随想にせよ、論説にせよ、現在の関連が大事である。

「類題」

青年と回想、思い出の修学旅行、人間にとって思い出とは何か、現在から未来へ

5. 私の抱負

主題を設定する

私の夢—という以上に、社会的な責任を伴った内容をしっかりと打ち出すべきである。抱負を「なぜ」持つようになったかが最も大切である。「どのように」という将来の設計については、これから勉強して考えていくことであるから、何よりも進路志望の切実な動機を明確な主題文として書いてみることである。

構想を練る

「なぜ」に大きく文章を費やすこと。抽象的・理論的なことでもなくてもよい。切実な経験を動機として語り、そこに社会的な使命感が伴うように構想しよう。

「類題」

私の責任、青年と社会、自問自答する、私の夢、将来への設計、志望と科学

6. 学生と社会

「AとB」型の話題の場合はAとBの関係を一度きちんと問い直してみる。単に両者の連体とか調和とかを考えるのではなく、AとBとがどうかかわり合うのが本当なのかを考えてみる。この話題は志望論のココを越えて、大学のあるべき姿をも問い直している。学生生活の先に社会があるというだけでは失格。

構想を練る

話題の意味をいったん自分の問題として受けとめるところから論を起すのが、真正面な行き方だろう。当然、自分の決意がその後に展開されることになる。

「類題」

社会と大学、学問と職業、学生と社会人

7. 大学と私

主題を設定する

主題から言えば、私の大学生生活論である。こういう大学生生活を送りたいという抱負を主題文として用意しよう。私という一人称がついているゆえんである。学問への意欲、学園生活の充実を出題者は当然期待している内容である。一般的な大学経営論は不要。

構想を練る

自分自身にとって大学とはいったい何なのか、という切実な自問自答が展開上迫力をもってくる。その中に具体的な動機や理由や抱負が盛り込まれよう。

「類題」

私の学生生活、私にとって大学とは何か、学問と人間、学園生活の充実

8. 読書

主題を設定する

読書論とみてよい、もちろん自分の具体的な経験を語ってよいと同時に、読書というものについて一体自分はどう考えているのか。その見識を問われているのだという気持ちがある。人生における読書の意識なぜ本を読むのかといったぐあいに内容は多方面である。

構想を練る

少なくとも「読書と〇〇」といった関連を考えておいて、その〇〇をどの辺に出すか配慮しよう。必ず具体例を加えるように文章全体が生きてくる。

「類題」

娯楽、知識、修養、読書のすすめ、読書の楽しみ、図書室より

9. 老人と現代社会

主題を設定する

「A・CB」型の課題。論説文が適当である。この場合老人が社会的に弱者であるという前提が当然考えられよう、その前提とされた当然の通念に何を加えるかが主題設定の眼目である。課題に対しての切り込み方にも工夫がいるわけである。話題も具体的に身近の経験から採りたいところである。

構想を練る

世代の構成の問題として考えると、新しい視野がいくつか生まれて来る。その視点から見たいくつかの問題点がそのまま文章の展開になるだろう。

「類題」

敬老の日、老人と子供、三世代、席を譲る

10. 生きる

主題を設定する

「生命」という課題よりもはるかに具体的な語感をもった課題である。この課題から連感される具体的な事例を話題として設定しなければならない。発想は課題の迫真性からいっても、当然論説である。具体的な話題を通して、生命肯定の主題文が述べられねばなるまい。

構想を練る

具体的な例話は文章の性質上、二つ用意されていい。その話題を一本に貫く力強いものであってよいはずだ。

「類題」

生の実感、生きる意志、私の生命、生の流転

在审题和构思的基础上，可以采用如下写作方法：

(1) 自由写作法